



鴻巣市立下忍小学校

令和2年10月1日発行

学校だより

◎教育目標（目指す児童像）

「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「元気でがんばる子」

鴻巣市鎌塚10番地

TEL 548-2300

お蔭様の心で ～ ともに生きる よい良く生きる ～

校長 宮野和幸

例年とは違う2学期がスタートし、学校生活も約1ヶ月半程過ぎました。「実りの秋」という、この季節も概ねほぼ順調に進み、いよいよ本日から10月に入りました。

本校では、今月の下旬から、「教育相談日」を設定し、学校と保護者間における必要な情報交換をもとに、子ども達の健全な成長を願う話し合いをもつことを目的とした「保護者面談」を実施いたします。特に今年は、新型コロナウイルスの感染拡大問題の影響により家庭と学校の双方にとってのコンタクトを、これまでなかなかもつことができませんでしたので、今回はぜひ有意義な面談にさせていただければと思います。

さて、日本では、人と人との触れ合いの中で「お元気ですか」「はい、お蔭様で・・・」と言うような挨拶が、昔から大切にされてきました。ここで言う「お蔭様」という言葉には、次のような説があるとされています。

昔、旅人が暑い夏の日差しをしのぐために木の陰で休んだり、また、雨や風、雪を防ぐため木の陰で雨宿りをしたりしました。その木の陰に「お」をつけて「お蔭」、さらに「様」をつけました。そこには「お蔭様」で旅を続けることができましたと感謝する気持ちが込められています。

そもそも、木は旅人のために枝を張り、葉を茂らせていたわけではありません。木はただ精一杯、木として生きていただけですが、木のお蔭で旅を続けることができたのだと昔の人は考えたわけです。

私は本校に赴任して3年目を迎えておりますが、これまでの様々な学校内外における多岐に渡る行事等を通し、たくさんの皆様から「子ども達の頑張っている姿は素晴らしい」「子ども達の演技や発表を見て、本当に感動しました」「お蔭様で子ども達から勇気や元気をもらいました」等のお褒めの言葉をたくさんいただきました。

冒頭でも述べたとおり、木が精一杯枝を張るように、子ども達が一生懸命に演じた演技や歌った歌声等は、見ている周囲のたくさんの皆様に感動や元気を広く与えたものと、大変嬉しく、そして大変誇らしく思っております。

子ども達は、決して喜んでもらうために頑張ったわけではありませんが、結果として自分たちの頑張りがたくさんの人達に喜びと感動を届けることになりました。子ども達にとっては大変な励みと自信にも繋がったことでしょう。そして、自分たちも多くの人達に励まされ支えられているという「お蔭様」の心に気づくこともできたと思います。今後も「お蔭様で」という心を大切に、良き人生を送りたいものですね。

学校では、各学年の社会科見学、6年生の鴻巣市陸上競技大会や、来月の修学旅行等、実に様々な学校行事が盛りだくさんです。引き続き、新型コロナウイルスの感染予防・防止の視点に立った、安心・安全の万全な対策や、新たな学校生活様式を全面的に推進しながら取り組んでまいりますので、保護者・地域の皆様からの温かいご支援とご協力を、どうぞ宜しくお願いいたします。

運動会 9月19日(土)

本来であれば春に開催する予定だった運動会ですが、今年は新型コロナウイルス感染症対策もあり、秋に延期し、午前中のみで開催とさせていただきました。当日は、雨が降ったり、やんだりの天気でしたが、子どもたちは今まで練習してきた成果を発揮し、その一生懸命に頑張る姿は、とても輝いて見えました。

保護者の皆様にはお足元の悪い中、たくさんの方にご来校いただき、ありがとうございました。例年とは違った形の開催となりましたが、ご理解とご協力をいただき、無事に運動会を行うことができました。改めて感謝申し上げます。



「ドラえもん」(1.2年) 「全集中下忍の呼吸3・4の型円舞」(3.4年) 「こころツナガレ」(5.6年)

心肺蘇生法研修 9月3日(木)

9月3日(木)に、教職員で心肺蘇生法研修を行いました。例年だと水泳の授業が始まる前に実施していましたが、今年は水泳の授業が行われなかったため、運動会や持久走大会に向けてこの時期に行いました。吹上消防署の方をお招きして心臓マッサージやAEDの使い方等教えていただき、職員も万が一に備えて真剣に取り組みました。



下忍っ子的ために！

9月17日(木)に学校応援団の方より、たくさんのマスクを寄贈していただきました。新型コロナウイルス感染症対策としてマスクは必需品です。寄贈していただいたマスクは、大切に使用させていただきます。今後も、学校応援団の方々の思いに感謝し、心豊かな下忍っ子に育ってほしいと願っています。

